

全リ演ニュース

全日本演劇フェスティバル 特集 第2号

2010年7月19日版

東北ブロック全リ演ニュース

発行所(劇団仙台小劇場)

全リ演事務局 京浜協同劇団 〒212-0052 川崎市幸区古市場二丁目109 TEL 044-511-4951 FAX 044-533-6694
 フェスティバル事務局 銀河ホール 〒029-5511 岩手県西和賀町上野々39-195-2 TEL 0197-82-3240 FAX 0197-82-2883

2010年9月10(金)-12(日)開催 全日本演劇フェスティバル



劇団きづがわ「二人の長い影」

スケジュール詳細決まる

第11回全日本演劇フェスティバル(第18回銀河ホール地域演劇祭と併催)の詳細が決まりました。第1号発行から2ヶ月、中野議長の頭を悩ませていたはずのスケジュール調整がうまくいきました。模型舞台展示や劇団パネル展などの企画も決まりました。

暑い夏が始まりました。どうぞ、東北の湖畔に建つ銀河ホールで開かれる演劇フェスティバルへおいで下さい。

上演スケジュール

劇団名	上演作品名	作	演出	上演	劇場	ホワイエ	町内
高齢者劇団	七人の桜井	金子義広	中野 健	9月10日(金) 13:30	銀河ホール	全リ演 内山勉さん の参加劇団 「模型舞台 展」	しるたに まもる (休憩など術教室 随時)
黒沢尻歌舞伎保存会	村歌舞伎「恋飛脚大和往来 二幕/新町揚屋の場・新口村の場」		吉村雄之輔	19:00	銀河ホール		
劇団 東京芸術座	12人の怒れる男たち	原作:レジナルド・ローズ 訳:額田やえ子	稲垣 純	9月11日(土) 11:00	銀河ホール		
劇団 ぶどう座	猫の事務所ごっこ	宮沢賢治童話集より 脚色:川村光夫	菊池啓二 真嶋 実	13:30 16:30	ぶどう座アトリエ		
劇団 支木	往生際はにぎやかに	田辺典忠	田辺典忠	18:30	銀河ホール		
劇団 きづがわ	二人の長い影	山田太一	林田時夫	9月12日(日) 10:30	銀河ホール		
合評会				13:30	銀河ホール		

合評会講評者	前進座演出部	鈴木龍男
総合舞台監督		内山 勉

全リ演(東)総会は

9月11日(土) 13:30-16:00
Uホール で!

舞台パネル展

参加劇団大募集!

これまでの劇団の歴史・舞台写真・舞台模型・舞台衣装・小道具・台本・ポスター・チラシ・パンフレット・チケット・新聞等に掲載された「劇評」など、どのような形で自由パネル(3尺x6尺)とテーブル(60cmx180cm)の範囲内でホワイエに展示できます。内容に制限はありません。どうぞふるってご参加下さい。

申し込みは、参加申し込みと同じメールまたは電話・FAXで!

内山勉さんの舞台模型も数点、展示する事になっています。全リ演加盟劇団の舞台美術を手がけた模型を中心に展示する予定です。

新情報随時揭示

全リ演電脳組の手で演劇フェスティバルのホームページが開設されています。演劇フェスティバルの情報を随時掲載しています。どうぞアクセスしてください。



舞台模型展

<http://zenrien.sakura.ne.jp/ginga/>

錦秋湖に忽然と現れる謎のステージ

雪解け水が落ち着き水位が下がると、銀河ホールの眼下に現れる野外ステージ。交流会ではここでかがり火を焚いて

鬼剣舞もいと目下検討中!



* このステージについてはホームページの「見どころ編」に詳しく書かれています。どうぞご覧下さい。

謎の湖畔ステージで交流会…
全体の進行は銀河鉄道?



中野さんはまた考えています

参加費用

参加費 (観劇料・講師料・交流会費を含む)

一人 3,000円

観劇のみ(全作品観劇可)

一人 1,000円

宿泊料(朝食付き)

一泊 6,000円



車で来たら到着前に
錦秋湖PAで温泉に入れる
電車で来たらほっこりだ
駅舎に温泉がある
あっちにもこっちの
温泉がある
ほっちなまちだなあ

参加申込方法

第18回銀河ホール地域演劇祭・第11回全日本演劇フェスティバルへようこそ。

本演劇祭・フェスティバルへの参加は下記の申込用紙に必要事項をお書きの上、右のいずれかの方法でお申し込み下さい。

申込用紙は以下の演劇フェスティバル・ホームページからダウンロードできます。
<http://zenrien.sakura.ne.jp/ginga/>

郵送: 銀河ホール
〒029-5511 岩手県西和賀町
上野々39-195-2

FAX : 0197-82-2883
銀河ホール

メール:
gingahall@engeki-j.sakura.ne.jp
演劇祭・フェスティバル 事務局

問い合わせ

TEL 0197-82-3240 銀河ホール 高橋光世



イモニカイ?

この時期、東北では取れたての里芋を使って野外で鍋を行います。しかし、この行事は呼び方も鍋の内容もそれぞれ県によって異なります。

宮城・山形では「芋煮会で芋煮を食べる」、秋田では「鍋っこ遠足でいものこ汁をたべる」。そして、宮城・秋田は豚肉の味噌味。山形は牛肉で醤油味。

会場の湯田の辺りでは隣の秋田県の山内で作られる里芋(いものこ)を用います。東北ブロックでは当日、会場に芋煮を持ち込んで、東北の秋を舌でも味わっていたらこうと意気込んでいます。

